

Medical Technology 別冊 超音波エキスパート 9

## 末梢動脈疾患と超音波検査の 進め方・評価

—腹部大動脈・腎動脈・下肢動脈を中心に—

松尾 汎, 佐藤 洋編集



松尾 汎先生, 佐藤 洋先生といえば, 血管超音波検査に携わっている方なら知らない方はいらっしゃらないであろう。この分野における日本を代表するドクターとソノグラファーである。そのお二人の先生により誕生した本書であるがゆえに, 読者の皆様方のお手元に届くことを願わずにはいられない。今から 15 年前に遡るが, お二人は国立循環器病センターにおいて一緒に血管超音波検査室を立ち上げられた同朋でもある。松尾 汎先生は内科医としてバスキュラーラボの必要性を説かれ, 佐藤 洋先生はソノグラファーとして検査技術の基本とその重要性を説かれ, 互いに検査室の礎を築かれた。現在では, そのご苦労が実を結び, 全国に血管超音波検査技術が広がり, いまや臨床になくはならない検査法となっていることは周知のことである。

お二人の最近の著に、『血管エコー テクニックと意義』(インナービジョン刊)という秀作本があったのを思い出させる。松尾 汎先生が編者となり, 第一線で活躍中のソノグラファーの先生方が中心になって記述された検査技術を中心としたマニュアル本である。従来から検査技術の重要性と発展を考えてこられた先生らしい書籍でもあった。そのような血管超音波検査の基礎的, 技術的な研究を中心に行ってこられたお二人の先生が『末梢動脈疾患と超音波検査の進め方・評価』という血管超音波検査の集大成ともいべき動脈疾患における超音波検査の入門書が出版された。一読してみると, これが何ともよくできた著作であり, 驚きとともに先生方の奥行きと幅広さを感じさせられる。少なくとも, この種の本は今までに何冊か出版されているように思われるが, 既存の参考書と異なる大きな点は, 血管超音波検査について序文で著者自身が「そのテクニックだけは, 自ら育んでいく以外には, 他に手段がない」と述べられているものの, 検査テクニックのエッ

センスをできるだけ簡潔に整理し, 超音波検査の技術面を重視して著作された末梢動脈疾患超音波検査の入門書であるということである。

本書では, 総論として巻頭言に末梢動脈超音波検査の今日的意義が述べられ, 各論としては末梢動脈疾患と病態生理, 診断治療指針, 末梢血管外科の動向, 超音波以外の末梢血管画像診断と, 末梢動脈疾患超音波検査を行ううえで知っておかねばならない重要な事柄が, すべてこの一冊に網羅されている。各種動脈疾患ごとに, その病態生理, 診断の決め手, 臨床医が知りたい所見・計測値とその解釈, 検査の流れなどがイラストおよび超音波画像を駆使して簡潔に記載されている。また, 肝心なところは超音波写真を見るだけでわかるように見事にまとめあげられ, 初心者の方でも理解できるように注意点が細かく記載されている。最終章ではまとめとして, 「血管超音波検査のレポート」の雛形が紹介されており, 実際の日常臨床で依頼医から検査がオーダーされる目的から, 血管超音波検査の進め方・アプローチ法の要点が実に見事に簡潔に記載されている。

血管超音波検査は他の生理検査とは異なり, ケースによってはマニュアル通りに進めることがむずかしいのが特徴でもあるが, それはあくまで血管超音波検査の基礎的項目を十分に履修されていない方を指してのことである。本書は, そのような方をも対象に執筆された入門書であり, 研修医, レジデントおよびソノグラファー, また医学生が教材として用いるのみならず, 血管超音波検査室および診察室にも常備しておきたい一冊である。

(大阪南医療センター 臨床検査部 増田喜一)  
<A4 判変形, 172 頁, 定価 5,145 円 (本体 4,900 円+税 5%)/医歯薬出版/2009>